

令和二年度 学校関係者評価資料

武蔵野栄養専門学校 自己評価報告書

基準項目ごとの学校関係者評価

基準1 教育理念・目的・育成人材像等		
<p>【現状と課題】</p>	<p>後藤学園の教育理念は、「身体で覚えた技術は一生を貫く」「優れたプロは優れた人格を有する」である。</p> <p>教職員の教育理念に対する認識度は高いが、学生への周知度はまだ十分とは言えない。周知方法も含めて検討し、学生に伝達していく必要がある。</p> <p>学校目標を「人格教育と実践的な職業教育により、社会に有為な栄養士を育成する」と定めている。学校目標の実現のためにも、栄養士としての専門的な知識・技術を身に付け社会に貢献するだけでなく、社会人としての礼儀やマナー、コミュニケーション能力や課題解決力も合わせて育成していくことが責務である。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>学生や保護者・関連業界に対して本校の教育理念を周知するためには、HPの存在についてより周知徹底を図る必要がある。</p> <p>また、社会の要請に対して理念を的確に対応させるためには、社会が求める人材像を明確にし、それに必要な知識・技術を習得させることが重要である。業界のニーズを常に把握しカリキュラムを検討していくため、学内にはカリキュラム検討委員会を組織し取り組んでいく。</p> <p>学内に若手の教職員を中心とした将来構想委員会を組織し、学校の未来を考え教育の充実や学生募集につながる内容の検討を継続して行っていく。</p> <p>多様化する栄養士のニーズに合った授業を展開するため、入学者の興味関心を重視した選択コースの開講により教育の充実を図る。令和3年度は選択コースに「スポーツ栄養コース」を加えて企業とコラボレーションした実践的で魅力ある授業を展開していく。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>学生や保護者・関連業界に対する教育理念の周知とともに、若手教職員を中心とした将来構想委員会の活動に期待します。</p>	
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価平均点】</p> <p style="text-align: center;">4.0</p>

基準2 学校運営		
<p>【現状と課題】</p>	<p>令和2年度は「学校運営組織を新たに編成し、スムーズで効率的な業務体制を構築する」「チャイム授業開始を徹底するなど、メリハリのある授業内容を実行する」の2点をスローガンに掲げた。1つ目は全教職員をこれまでの「教務課」「実習実験課」の職務に加え、「教育管理」「学生支援」「募集情報」「進路開発」の分掌に分け、組織的な学校運営を構築するとともに、創意工夫のある学校づくりを目指した。</p> <p>2つ目は学生がより積極的に授業に取り組み、栄養士として実力をつけるよう、①チャイム授業の徹底、②ショートホームルームの励行、③アクティブラーニングの導入、④定期考査マークシート方式への変更を行い、授業改善の起爆剤とした。</p> <p>令和2年度はコロナ禍の中、学校運営に様々な制約が生じた。自粛期間中はオンデマンドによる授業を開講、授業開始後は感染対策を十分に取り、教育の質を落とすことのないよう教職員が一丸となって取り組んだ。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>業務分掌での組織化を図り、役割は明確化したが、組織を変更した初年度であり混乱も見られたため、引き続き分掌ごとの業務運営に取り組んでいく。</p> <p>学園の将来的なビジョンを実現するため、令和2年度より5年間の中期計画を策定、中期計画をもとに学校の目的・目標を達成するための事業計画を定めており、今後もこの事業計画に沿った学校運営を実施していく。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>コロナ禍にも関わらず、大変な労力を必要とする学校運営組織の改編に取り組まれたことは大いに評価されます。新たな事業計画の実施とともに今後の期待されます。</p>	
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価平均点】</p> <p style="text-align: center;">4.0</p>

基準3 教育活動		
<p>【現状と課題】</p>	<p>実践かつ専門的な職業教育を実施するために、企業等との連携を通じて必要な情報の収集・把握・分析を行い、教育課程の編成に活かすようにしている。社会の状況や業界のニーズにも対応するため、2年次に開講している選択コースに「スポーツ栄養コース」を令和2年度に新設、3年度から開講をすることが決定している。</p> <p>職業実践専門課程の認定条件である企業等と連携した実習・演習については、例年「校外実習」「大量調理実習」「調理理論実習」にて実務能力の習得に努めているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施することができなかった。</p> <p>学力不足による学習意欲の低下や退学防止を目的として1年生前期に「基礎学力演習」を実施、基礎学力の向上に努め、学生全体の学力の底上げを図っている。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>コロナ禍により企業等との連携やキャリア教育を例年通り実施することができなかった。校外実習においては、実習施設の確保が困難となり学内代替履修となったが、例年と修学に差が生じぬよう、分散して代替授業を行った。受託会社の栄養士（保育所、事業所、病院）を複数回招き、栄養士として必要な知識及び技能を修得できるよう努めた。</p> <p>選択コースにおいても企業関係者による授業を実施することができなかったが、病院・福祉栄養実習では高齢者施設に在職している管理栄養士に講師を依頼しているため、対面授業とオンライン授業を併用しながら修学に努めることができた。令和3年度は感染状況を鑑みながら、安全に配慮をして実施していきたい。</p> <p>保育・学校給食管理実習においては企業等と連携した授業を取り入れることができていない。教育の公平性を図るためにも、今後はこの科目での企業との連携と同時に、他科目でも可能性を探るべきである。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>コロナ禍のため、企業連携等の実習が実現しない中でも、オンライン等の代替授業の実施で生徒の学力定着に取り組まれたことを評価します。</p>	
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価平均点】</p> <p style="text-align: center;">3.7</p>

基準 4 学修成果	
<p>【現状と課題】</p>	<p>令和 2 年度卒業生就職率は 94.1%で、就職希望者における就職率は 100%に達し、目標である 96%以上を上回った。また、栄養士関連業界への就職率は 95.8%となっており、資格を活かした専門分野への就職率が高いことは、専門学校としての使命を果たしているものと思われる。</p> <p>栄養士以外の取得資格として、フードアナリスト 3・4 級、NR・サプリメントアドバイザー、介護職員初任者研修の資格取得を支援している。また、食育栄養インストラクターの資格は栄養士実力認定試験で認定 A を取得した者に与えられるため、全員の認定 A 取得を目指しているが、学生の学力には差異があるため、個人に合わせたきめ細かい指導が今後必要となる。</p> <p>※栄養士実力認定試験結果・・・成績優良者 全国 1 位・8 位で表彰</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>就職に対して学生満足度を高めるためには、学生が希望する業界に就職をさせることが必要である。担任や進路開発との面接を通して、個人の適性を確認のうえ学生一人ひとりと向き合いながら、就職指導を徹底していくことが重要である。</p> <p>年々早まる就職活動時期に対応し、1 年後期に「接遇・ビジネスマナー演習」、2 年前期には就職希望分野別の少人数制「就職セミナー」を実施し、キャリア教育の充実、学生の就職活動についての不安解消など、学生の満足度につながるよう就職支援を行う。さらに、企業説明会の時期を前倒しする。</p> <p>本校では栄養士実力認定試験 A 判定取得者の平均値を全国平均の水準とするため、1 年後期からの対策講座や模擬試験の実施、試験に向けて通常授業においても補完する等、取り組みを行っている。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>就職実績の数字は、入学を検討する高校生と保護者に対して最も重要な数字と考えます。今後も高い就職率の維持を期待します。</p> <p>栄養士実力認定試験 A 判定取得者の全国平均水準への到達を期待します。</p>
<p>【4 段階評価】</p> <p>適切である</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p> <p style="text-align: right;">課題がある</p>	<p>【評価平均点】</p> <p style="text-align: center;">4.0</p>

基準 5 学生支援		
<p>【現状と課題】</p>	<p>令和 2 年度より進路開発が就職活動支援を行っている。就職率の詳細は、基準 4 を参照願いたい。</p> <p>退学率の目標を 5%未満に設定しているが 4.7%であった。就学意欲の高くない学生や学力不足の学生を含めて全員入学させている現状にあって、これらの学生をどのように支援すべきか具体的な対応策を講じる必要がある。また、2 年次の退学理由は学力不足を含め、家庭環境の複雑な事情や経済的理由も多く、難しい問題である。このような中、スクールカウンセラーによるカウンセリングを昨年同様週 2 回とし、相談対応の充実を図った。</p> <p>経済的な支援については、コロナ禍に見舞われ収束がみえないことも加わり、学費支援制度の利用に関する積極的な支援が課題である。</p> <p>健康管理について、令和 3 年度より学校保健計画を策定し、年間計画を立案して円滑に進める予定となっている。しかしながら、看護師は基より保健主事は不在のままである。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>就職活動支援は、進路開発を中心とした組織的な対応が開始され、より担任と連携がとりやすくなったため、さらに学生の要望に適する体制を構築していくべきである。</p> <p>退学の兆候は、出席率に現れやすいため、担任の支援に加え、関係者（メンタルヘルス推進委員をはじめとした他の教職員やスクールカウンセラー、保護者）の連携・支援の更なる充実が必要と考えられる。</p> <p>経済的支援の基本として、奨学金に関する事務手続きを法人事務局担当者と教員のダブルサポートで対応している。しかしながら、円滑さに欠けることが度々起こっている。より高度で専門的な支援者の配置も検討していく必要がある。</p> <p>健康管理は、看護師の常勤を前提とした学校保健計画立案による充実が図られるべきである。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>退学率の目標達成を評価します。今後は専門機関等との連携を深める等でさらなる退学率の低下を期待します。</p> <p>また、卒業後サポート支援（3 年位）や就職先にアンケートを取る等して、離職率についても把握をするようにして下さい。</p>	
<p>【4 段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p>4 3 2 1</p>		<p>【評価平均点】</p> <p>3.7</p>

基準6 教育環境		
<p>【現状と課題】</p>	<p>修繕・購入等については、事業計画に示し、限られた予算の中で法人事務局と相談しながら進めている。また、施設・設備の補修・改修は、法人事務局が担当し、経過年数や予算、緊急性に応じて順次行っている。</p> <p>コロナ対策として、登下校時の動線を特定し、ロビーにおける検温や手指消毒対応等に取り組んだ。</p> <p>校外実習については、コロナ禍により各種調整が困難となったため、学内代替履修に踏み切った。従前の企業等における実習について、5つの企業等から協力を得ることができ、担当者にご来校いただいで代替開催した。</p> <p>防災・安全管理については、緊急時対応マニュアル作成・改訂に努めた。従前の教職員防火・防災訓練、学生避難訓練を継続しているが、後者はクラス単位の規模に留まっている。</p> <p>防犯の面では、貴重品ロッカーの設置、教職員による昼休み時間の教室巡回等の対策を講じてきたが、貴重品ロッカー使用率は低く、教室巡回もコロナ対応により減少した。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>修繕・購入、施設・設備の補修・改修の問題は、衛生系の学校として適正化すべきことは妥協してはならないため、法人事務局と連携し解決することが必要である。</p> <p>校外実習は、コロナ禍により実現の困難さが解消されないと思われるが、企業等との連携を強化し、学生ニーズにより近い実習の実現に努めるべきである。</p> <p>学生避難訓練は、年間計画に組み込むことで、クラス単位の域を脱却することが可能と考えられる。</p> <p>貴重品ロッカーの使用率向上を図ると同時に、貴重品管理の徹底に向けた指導を強化する。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>衛生系の学校としての施設・設備管理を徹底していることを評価します。入学を検討する高校生と保護者にとっては直接目に見える物なので、さらなる管理継続を期待します。</p>	
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価】</p> <p style="text-align: center;">3.7</p>

基準7 学生の募集と受け入れ

<p>【現状と課題】</p>	<p>学校案内書・募集要項の作成、学校見学、模擬授業、高校ガイダンス等については、法人事務局広報部主体で行っており、募集情報担当教員を中心に教職員も HP や LINE、Facebook や YouTube 等の SNS を生かした広報活動に取り組んでいる。</p> <p>年間 30 回以上の体験入学（オープンキャンパス）は、チーム制を導入し、教職員が企画・運営し、広報部栄養担当職員と連携して内容の充実を図っている。令和 2 年度の延べ参加者はコロナ禍でありながらも見学説明会を主とし、個別対応の強化やオンライン説明会を行ったこともあり、前年度の 474 名から 606 名に増加、実人数による歩留まり率は 46.6%であった（目標は 40%としており達成）。</p> <p>令和 2 年度はコロナ禍の社会情勢を鑑み、学園独自の学費支援制度として「新型コロナウイルス特別減免制度」、高校 3 年生の進路を後押しする「ディスカバー支援制度」、既卒者の学び直しを支援するための「リスタート支援制度」を新設し、入学者の経済的負担を軽減する方法を図った。入試方法については、多彩な入学方法を取り入れており、令和 2 年度においては、東京都長期高度人材育成訓練の受託校として 20 名の訓練生を受け入れた。</p>	
<p>【改善のための方策】</p>	<p>学校案内書、HP 等は正確な情報を適切に伝えることは勿論、入学希望者に必要な情報を分かりやすく伝える必要がある。昨今は SNS を利用した広報活動・学生募集活動が主流になってきている。情報管理を徹底した上で積極的に活用し、入学希望者にとって理解しやすく魅力的な情報を発信していきたい。</p> <p>体験入学（オープンキャンパス）については、より魅力的な内容とする為に、アンケート等を基に何が求められているのか参加者の立場に立って内容を精査し、ブラッシュアップしていく必要がある。</p>	
<p>【関係者評価】</p>	<p>体験入学、SNS を利用した広報活動により昨年度を大幅に上回る参加者を得たことを大いに評価します。</p>	
<p>【4 段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p style="text-align: center;">4 3 2 1</p>		<p>【評価】</p> <p style="text-align: center;">4.0</p>

基準8 財務	
<p>【現状と課題】</p>	<p>入学者数の減少により、支出超過が続いている。令和3年度には経営改善計画委員会を設置し、プロジェクトに分かれて経営改善に取り組む所存である。</p> <p>定員を240人としているが、近年の募集状況ならびにクラス編成やカリキュラムの都合上、5クラスが望ましいものと考えている。教職員数の見直しも含めて検討が必要である。</p> <p>私学振興助成法に基づく公認会計士による監査を受けており、財務情報については、HP上にて学園の財務情報ならびに監事監査報告書を公開している。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>当面の運営資金は確保できているものの、学園全体としては支出超過の状況が続いている為、まずは入学者目標数の達成に向けて募集活動に注力をしていくと同時に、定員の見直しについても検討をしていく必要がある。また、継続して支出内容を見直し、教育の質を下げずに支出を節減する方法を模索していかねばならない。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>体験入学等の参加者は増えています。ホームページ掲載内容の充実や資格取得の内容を増やす等して、入学者増加となるよう期待します。</p>
<p>【4段階評価】</p> <p>適切である</p> <p>4 3 2 1</p> <p>課題がある</p>	<p>【評価】</p> <p>3.0</p>

基準 9 法令等の遵守		
【現状と課題】	<p>専修学校設置基準及び厚生労働省の栄養士養成施設設置基準等、関係法令や学内規定を遵守し健全な学校運営を行っている。</p> <p>学園において、ハラスメント防止委員会、公益通報者保護規定、学校法人後藤学園個人情報保護規定等を定めている。</p> <p>個人情報について、教職員は規定に従い個人情報保護を遵守している。学生の個人情報等については、保管場所を施錠できる棚に定め、適切に管理している。</p> <p>学校評価に関して、自己評価報告書に基づき学校関係者評価を実施、評価結果については HP に公表している。</p> <p>労働安全衛生法に基づく安全衛生委員会が 27 年度に設置、平成 28 年度にストレスチェック制度実施規定が設置され毎年教職員にストレスチェックが行われている。</p> <p>授業評価アンケートは、前後期の各授業で行われる。集計は学生支援担当が実施し、結果は教育管理担当から授業担当者に告知している。</p>	
【改善のための方策】	<p>監督官庁が定めている法令等を遵守し、健全な学校運営がなされているが、若い教職員も入職している現状から、法令遵守に関する教職員研修会の開催等について検討する必要がある。</p> <p>個人情報保護については、学園の統括責任者の下、学校にも個人情報管理責任者を配置して個人情報の保護に取り組んでいるが、職員への啓発活動を継続的に行い、個人情報保護について意識付けの徹底を行っていかなくてはならない。</p> <p>自己評価報告書、学校関係者評価結果、第三者評価結果等をもとに、問題の把握・改善に取り組み、授業内容やカリキュラムの改善に努め取り組んでいく必要がある。</p>	
【関係者評価】	<p>継続して個人情報管理等、コンプライアンス遵守の全教職員への徹底を期待します。</p>	
<p>【4 段階評価】</p> <p>適切である 課題がある</p> <p>4 3 2 1</p> <p>_____ _____ _____ _____ _____</p>		
		<p>【評価】</p> <p>4.0</p>

基準 10 社会貢献

<p>【現状と課題】</p>	<p>本校の学校としての使命は主に教育活動であるが、地域社会・産業界・行政と連携した社会貢献活動は、教育機関として重要な取り組みである。学校の教育資源を利用した社会貢献活動や取り組みを企業や地域と連携して行っているが、まだ十分ではない。また、昨年度までは、夏休みこどもチャレンジ、ジュニア食育教室や調理従事者向けの調理講習会など継続的に実施していたが、令和2年度はコロナ禍により実施することができなかった。</p> <p>ボランティア活動への参加は個々に任せており、現状としては参加する学生が限られている。また、ボランティアの必要性や意義がわかっていてもどのように活動すればよいかわからない学生が見受けられる。</p>
<p>【改善のための方策】</p>	<p>ボランティア活動は人間力を育成させるための教育の一環とも成り得る。令和2年度はコロナ禍により、例年通りの社会貢献活動ができなかったが、学生の人間力向上に及ぼす影響を考慮し、できるだけ早期の社会貢献活動の再開や、学生個人・グループでの活動や取り組みを促進するような支援体制作りを強化していく必要がある。</p> <p>コロナ禍においても安全に取り組める地域貢献・社会貢献の形について構築し、世の中の状況を鑑みながら、再開を促していきたい。また、学生が参加できるボランティア活動の情報提供を充実させることにより、参加意識や意欲を芽生えさせ、参加をしたがいがあったらよいかわからない学生をボランティア活動参加へ促し、本人が自発的な意思により活動できるよう支援をしていきたい。</p>
<p>【関係者評価】</p>	<p>コロナ禍により、継続した地域貢献は難しい状況にはありますが、ボランティア活動の推進に期待します。</p>

